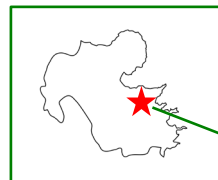


「ほんまもんの里・うすき」農業推進協議会（大分県臼杵市）

53

背景・課題

臼杵市では、平成22年に「臼杵市土づくりセンター」を開設し、「うすき夢堆肥」（原材料の8割草木類、2割豚糞）を製造。完熟堆肥で土づくりを行い化学肥料・化学合成農薬の使用を避けて栽培した農産物を「ほんまもん農産物」として市長が認証。「ほんまもん農産物」は、JA直売コーナーや地元スーパー等での流通のほか、学校給食や飲食店での食材利用、また、小学校・幼稚園の収穫体験、一般市民が農業体験を行うオーナー農園等活躍の場を拡大。慣行栽培から有機栽培に転換しようとする生産者や、新しく有機栽培を志す移住者、農家民泊を行う農家など、様々な方向へ展開。



臼杵市

構 成 員

臼杵市、大分県、JAおおいた、公社、土地改良区、農業者、消費者等

品 目

露地野菜

成果目標と達成状況

※最終的な達成状況は令和10年度に評価

- 「ほんまもん農産物」の認証農家戸数 50戸(R3) → 54戸(R4) → 70戸(R9)
- 学校給食での「ほんまもん農産物」の使用割合・使用量 11.4%・7.5t(R3) → 24%・15t(R4) → 25%・16t(R9)
- 「ほんまもん農産物」及び有機農産物の栽培面積（露地野菜） 80ha(R3) → 91.0ha(R4) → 100ha(R9)

取組の成果

- ①生産：土壌診断結果や堆肥成分分析結果のフィードバックによる継続的な土づくり、共同出荷体制の整備
- ②流通：集荷トラックによる農産物集出荷の試行、新規販売店舗の確保と販売促進活動、栽培実証及び保冷保存試験の実施
- ③消費：「学校給食オーガニック」プロジェクトにより学校給食に「ほんまもん農産物」使用、直売所等における「ほんまもん農産物」コーナーの設置等



臼杵市土づくりセンター



「ほんまもん農産物」認証制度



「ほんまもん農産物」使用の学校給食

普及に向けた取組

臼杵市では、「うすき夢堆肥」による土づくりを核とした有機農業を推進する環境の整備と地産地消の拡大に向けた「ほんまもん農産物認証制度」による生産振興及び栽培技術の向上を図る。

また、学校給食での供給率を向上させるための共同出荷体制構築と食農教育の推進、保冷保存実証試験、大都市圏への販売拡大やブランド確立に向けた調査・研究、「ほんまもん農産物ロゴマーク」を活用したPR、SNS情報発信等による消費拡大を推進。

問い合わせ先

臼杵市役所 農林振興課有機農業推進班
TEL：0974-32-2220（内線211）

綾町自然生態系農業推進会議（宮崎県東諸県郡綾町）

54

背景・課題

綾町は、独自の有機農業認証制度を展開するとともに、町が有機JAS登録認証機関となることで、JAS認証にかかる農家負担の低減を図りJAS認証の取得を推進してきた。

近年、食の安全・健康に関する意識が高まる中、大手量販店や食品加工事業者からのオーガニック野菜の契約生産の依頼が増加しているが、十分に対応できない状況が続き、有機JAS認証農家の一層の拡大が急務となっている。

また、綾町には町内外より有機農業を志す新規就農者が定住しているが、有機農業の栽培技術を体系的に学ぶ場は無く、特定の有機JAS認証農家の指導に頼っており、販売先も独自に開拓せざるを得ないため、志半ばで離農せざるを得なかった農業者も少なくない。



綾町

構 成 員

綾町、JA綾町、商工会、農業委員会、生産者等

品 目

露地野菜

成果目標と達成状況

※最終的な達成状況は令和10年度に評価

○有機農業の面積拡大（露地野菜）	20ha(R2)	→	23ha(R4)	→	23ha(R9)
○有機農産物等の販売数量の増加	449,762kg(R2)	→	473,924kg(R3)	→	517,220kg(R9)
○有機農業者の増加	11人(R2)	→	11人(R4)	→	14人(R9)

取組の成果

- ①生産：有機農業を体系的に学び実践的な技術を会得できる「綾オーガニックスクール」を開校
- ②加工・流通：食品加工事業者との商品開発、町内外の消費者モニター調査の実施
- ③消費：「AYAオーガニック給食DAY」を設け学校給食での有機農産物の利用拡大、令和5年3月「綾町オーガニック給食の推進に関する条例」を制定、農作業体験や味覚に着目した授業など食育学習の実施



綾オーガニックスクール開校式



商品開発の検討会



AYAオーガニック給食DAY

普及に向けた取組

本年6月に開校した「綾オーガニックスクール」における研修生に対する技術、住居、研修後の就農に必要な農地・機械等の支援を推進するほか、有機農業の生産技術の高度化・省力化・軽労化、水田の高度利用技術の確立、スマート農機と作業の外部化を組み合わせた仕組みづくりを支援。さらに、長距離輸送体制の構築、県内食品加工事業者等と連携した新商品開発、町産の有機農産物を学校給食に活用するための仕組みづくり、農作業体験など総合的な食育学習の場の構築等を推進。

問い合わせ先

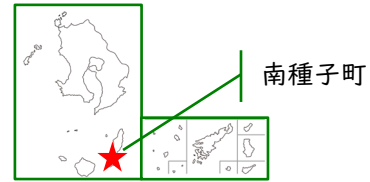
綾町役場 農林振興課 TEL：0985-77-0100

南種子町有機農業推進協議会（鹿児島県熊毛郡南種子町）

55

背景・課題

南種子町は、土地利用型作物の栽培が盛んであるが、担い手の不足及び高齢化が加速しており、遊休農地の増加や農家戸数の減少が危惧される。また、肥料や農薬等の資材の大部分を島外からの移入に依存しており、化石燃料価格の高騰が生産コストに大きく影響している。農業や地域の将来も見据え、持続可能な食料システムの構築に資する取組として有機農業を推進する。



南種子町

構 成 員

南種子町、農業委員会、教育委員会、JA種子屋久、有機農業者 等

品 目

いも類、露地野菜

成果目標と達成状況

※最終的な達成状況は
令和10年度に評価

○有機農業（いも類・露地野菜）の取組面積拡大	8.47ha(R3)	→ 10.7ha(R4)	→ 11.5ha(R9)
○有機農産物の販売量の増加	43t(R3)	→ 49.57t(R4)	→ 85.35t(R9)
○有機農業者の増加	9人(R3)	→ 8人(R4)	→ 16人(R9)

取組の成果

- ①調 達：土壌診断結果（南種子町土壌診断室分析）に基づいた施肥の実施（南種子町単独事業の取組）
- ②生 産：遊休農地の復旧による有機栽培圃場の確保、リモコン草刈り機の実証、町内の水稻農家等を対象とした有機米セミナーの開催、有機米の試験栽培
- ③加工・流通：有機農業に取り組む農家と流通販売事業者との意見交換会の開催、有機農業体験圃場で栽培された野菜の町内観光物産館での販売
- ④消 費：有機農業体験イベントの開催、町内小中学校の学校給食に有機野菜を使用した有機給食イベントの開催、オーガニック映画上映会の開催



リモコン草刈り機の実証



町内観光物産館での販売



有機農業体験イベントの様子

普及に向けた取組

本町の農業は、気象条件や病虫害の影響を非常に受けやすいため、必要な生産技術の確立を目指すとともに、環境負荷軽減、生産コスト低減及び地力維持を図るために、地域資源（牛ふん等）を原料とした堆肥の利用を推進。

また、有機農業を目指す新規就農者及び慣行農法からの転換を希望する者に対しては、有機農業先駆者並びに関係機関と協力し、就農相談や情報提供等を実施。販路については、町内の観光物産館、飲食店、学校給食、病院、福祉施設等との連携や、加工品の開発を進め、町内外の消費者が容易に有機農産物を入手できる環境づくりを推進。

問い合わせ先

南種子町有機農業推進協議会（事務局：南種子町役場総合農政課）
TEL：0997-26-1111（代）

株式会社八重瀬堆肥センター（沖縄県八重瀬町）

56

背景・課題

八重瀬町を含む沖縄県南部では酪農をはじめとした畜産業が盛んな地域であるとともに、サトウキビ、野菜（ピーマン等）、花卉（キク）等の耕種農業も盛んな地域である。そのため、地域内での乳用牛排せつ物の循環利用が期待されるところであるが、悪臭等の課題により、利用が進んでいない状況。

成果目標と達成状況

- 成果目標は、令和6年までに野菜・花卉の耕種農家におけるバイオ液肥の年間散布面積を令和3年度実績の26haに加え、新たに7.5ha以上の散布面積の拡大とした。
- 令和4年度の耕種農家への散布面積は48.4haとなり、令和3年度から22.4haの散布面積が拡大し、成果目標を達成した。

取組の成果

野菜・花卉におけるバイオ液肥を活用した生育調査結果を基にした講習会やパンフレットによる普及啓発活動等により耕種農家の理解・関心が高まり、バイオ液肥の需要が増加した。



- 地域の酪農農家からバキュームカーを使用し、ふん尿を回収



- バイオガスプラントからメタンガス（発電利用）とバイオ液肥を生産
- 固形分は堆肥化し利用



- メタンガスから得られた電力は売電
- バイオ液肥はバキュームカーでほ場へ運搬



- バイオ液肥を耕種農家へ配布・散布サービスを行い活用促進

普及に向けた取組

- ・各作物の最適な栽培条件を把握するため、バイオ液肥の散布方法（時期、回数等）の検討
- ・バイオ液肥の利用促進を図るための講習会の開催やパンフレットを作成
- ・バイオ液肥需要の増加に対応し、良質なバイオ液肥の安定確保を図るため発酵槽を増設

問い合わせ先

沖縄県農林水産部畜産課 TEL：098-866-2269